

特別支援学級担任の役割意識の変容に関する研究

松本 侑希子

I 問題

特別支援教育への制度の転換により、特別支援学級担任には、通常の学級に在籍し特別な教育的支援を必要とする児童生徒とその担任に対する支援をはじめ、校内を支援していく（文部科学省，2004 など）ことが、役割として今後一層求められることになる。及川（2002）の調査では、「地域や校内全体の支援」を重要と捉えることが、特殊学級担任として何かをやりとげたい、そのために力を身に付けたい、という意識を持つことに影響を及ぼしていることが明らかとなった。このことから、校内支援を自分自身の役割と捉えることは、特別支援学級担任としての成長に重要な影響を与えるものであることが考えられる。

先行研究を概観すると、教師が仕事をしている社会や地域、教師が所属する学校組織や教師自身の教職経験が、教師の役割意識に影響を与えている（Morrison&McIntyre, 1969；油布，1998；秋田，1994；中野，1990；日比・加藤，2011）ことが考えられる。しかし、特別支援学級担任がどのようなものから影響を受け、校内支援の役割を意識するようになっていくのか、その過程については未だ明らかにされていない。

「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議審議経過報告」（特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議，2010）では、特別支援学級担任に求められる専門性として、特別支援教育全般に関する基礎知識、担当する障害のある子どもの心理や障害の心理・病理に関する一般的な知識・理解や教育課程、指導法に関する知識・理解及び実践的指導力が挙げられている。特別支援学級担任が校内支援の役割を担っていくためには、このような特別支援教育や障害についての知識・技能だけでなく、「理解・啓発のための関係力」「校内のセンター的役割の遂行力」（齋藤，2003）についても、求められることが考えられる。しか

し、多くの者が特別支援学校教諭免許状もなく現職教育においても学ぶ機会が少ない現状（文部科学省中等教育局特別支援教育課，2013；野口・濱渕，2002 など）では、特別支援学級担任としての専門性を高めていくことが難しく、校内支援の役割を担っていくことも困難であることが予測される。このような現状から、特別支援学級担任が校内支援の役割を意識し遂行していくためには、校内外からの支援が必要であると考えられるものの、特別支援学級担任に対する支援について検討している先行研究は見当たらない。

そこで、本研究では、長年特別支援学級を担当してきた教師を対象に特別支援学級担任の役割意識の変容過程とその契機について明らかにすること、特別支援学級担任が行う校内支援の実態と課題及び特別支援学級担任に対する支援の現状について明らかにすることを目的とする。これらを明らかにすることは、校内支援の役割を担う特別支援学級担任に対する支援の在り方について検討する際の基礎的な資料になると考える。

II 目的

校内支援の役割を担う特別支援学級担任に対する支援の在り方について検討するため、以下の2点を明らかにする。

- ①特別支援学級担任になった当初から現在に至るまでの役割意識の変容過程とその契機について
- ②特別支援学級担任が行う校内支援の実態と課題及び特別支援学級担任に対する支援の現状について

III 方法

1 研究1

教職経験年数が10年以上で特別支援学級経験年数が5年以上の教師6名を対象に、半構造化面接を実施した。データは研究のためだけに使用し、

個人が特定されないよう加工することを説明し、対象者に了解を得て面接内容を録音した。

2 研究2

関東圏の特別支援学級を設置する小学校 400 校に調査協力の依頼を行い、調査協力可能と回答のあった 131 校の特別支援学級担任 258 名を対象に、郵送による質問紙調査を実施した。うち、110 校の特別支援学級担任 202 名から回答を得た。本調査の回収率は、学校 84.0%、特別支援学級担任 78.3%であった。そのうち、回答に不備のあったものを除く 127 名を有効回答とした。

IV 結果及び考察

1 研究1

研究1では、通常の学級担任として特別な教育的支援を必要とする児童の指導を経験し、特別支援教育の担い手としての自覚とやりがいを感じている教師は、自らの志望により特別支援学級担任となっていることが明らかとなった。

先行研究では、通常学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒を担当した経験のある者は、教師自身の特別支援教育に対する関心、理解と技能が高く、積極的な評価を行い、教職に関する研修の必要性を認識していること（小島・吉利・石橋・平賀・片岡・是永・丸山・水内, 2011）、障害児と実際に接する経験が、これから特別支援教育を始める教師の自信に、意欲に、そして学校全体の特別支援教育の推進力になっていくこと（下無敷・池本, 2006）が指摘されている。

これらのことから、特別支援学級担任になる以前に、通常の学級担任として、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導を経験し、特別支援教育の担い手としての自覚とやりがいを感じることは、特別支援学級担任に就任してからの職務に対する意欲をもつことにつながるものであると考える。

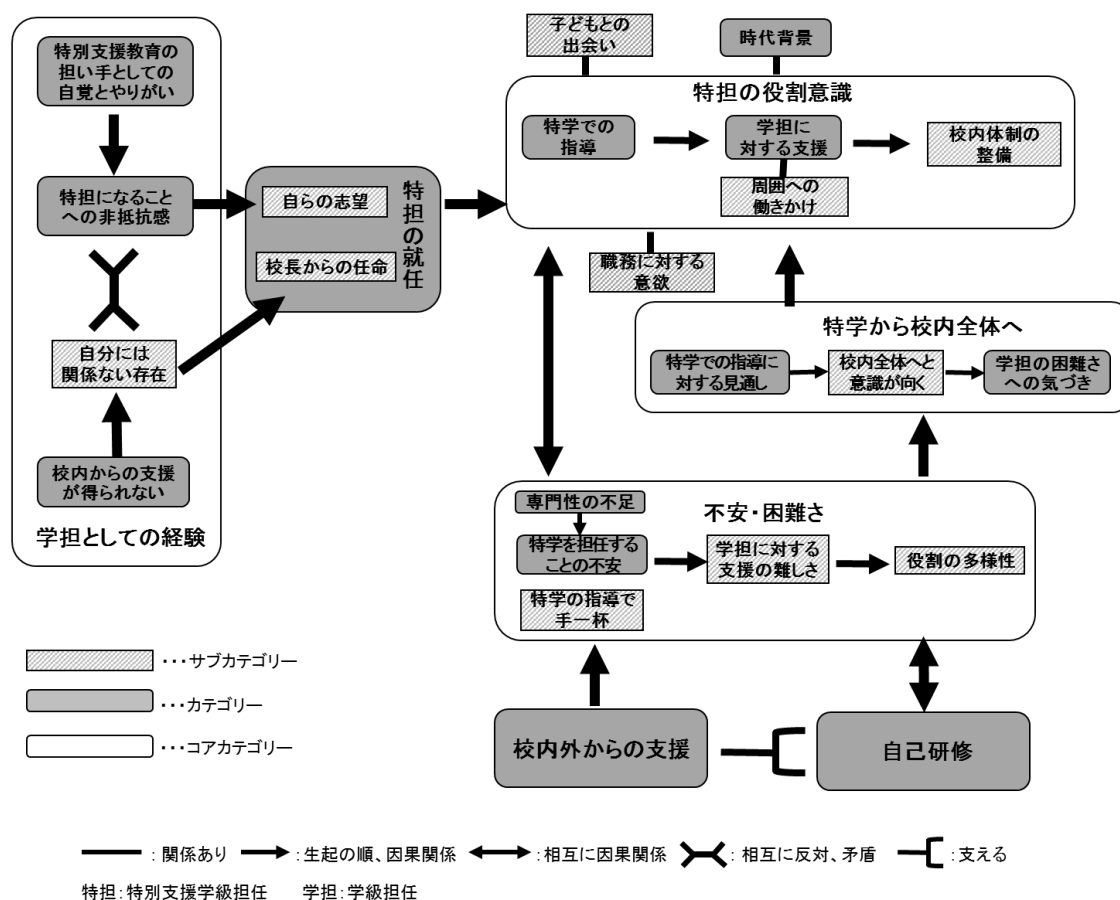


図1 特別支援学級担任の役割意識の変容過程

表 1 特別支援学級担任が通常の学級担任を支援することができるよう校内外で行われている支援の実態
(n=127) (複数回答可)

カテゴリー	度数
地域の特別支援学級担任との研修会に参加する機会がある	95
校内に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる	92
校内委員会で児童の支援だけでなく通常の学級担任への支援についても話し合う機会がある	79
特別支援学校が開いているセミナーへ参加する機会がある	78
校外に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる	78
特別支援教育コーディネーターと通常の学級担任への支援について話し合う機会がある	68
校内の特別支援学級担任同士で通常の学級担任への支援について話し合う機会がある	64
特別な教育的支援を必要とする児童を含めた学級経営や指導法について学ぶ校内研修がある	46
地域の特別支援学級担任が自主的に行っている勉強会に参加する機会がある	37

表 2 特別支援学級担任が通常の学級担任を支援する上で期待する支援
(n=127) (複数回答可)

カテゴリー	度数
校内に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる	66
特別な教育的支援を必要とする児童を含めた学級経営や指導法について学ぶ校内研修がある	64
校内委員会で児童の支援だけでなく通常の学級担任への支援についても話し合う機会がある	56
特別支援学校が開いているセミナーへ参加する機会がある	45
校外に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる	44
特別支援教育コーディネーターと通常の学級担任への支援について話し合う機会がある	40
校内の特別支援学級担任同士で通常の学級担任への支援について話し合う機会がある	40
地域の特別支援学級担任との研修会に参加する機会がある	38
地域の特別支援学級担任が自主的に行っている勉強会に参加する機会がある	31

また、特別支援学級担任になった当初は、特別支援学級での指導を役割として考えていたものの、校内外からの支援と自己研修により、特別支援学級担任としての不安・困難さが解消され特別支援学級から校内全体へと意識が向いていくことで、通常の学級担任に対する支援、校内の体制整備という役割を認識していくことがうかがえた(図1)。

先行研究を概観すると、教師の成長には教師自身が自ら取り組んでいく自己研修、教師の自己研修を支える校内外からの支援が必要であることがうかがえる(岸田, 1990; 稲垣, 2006; 小島, 1983; 齋藤, 2003)。そして、本研究においても、特別支援学級担任が役割を担う上での不安・困難さを解消し、新たな役割を認識し担っていく際には、特

別支援学級担任自身が取り組む自己研修と、それを支える校内外からの支援が必要であることが明らかとなった。

2 研究2

特別支援学級担任が通常の学級担任を支援する上での課題については、特別支援学級経験年数による違いが見られた。通常の学級担任を支援する上での課題として、特別支援学級経験年数5年以下の教師からは、特別支援学級担任当事者としての困難さ(齋藤, 2003)が挙げられた。特別支援学級経験年数6~10年の教師は、それに加えて、周囲との関係性に関する困難さ(齋藤, 2003)を、特別支援学級経験年数11年以上の教師は、さらに、特別支援学級担任の役割が多様性、拡散的・無限的であるという無限定的役割観(油布, 1998)からくる困難さも抱えていることが推察された。

このことから、特別支援学級の経験が浅い教師には、特別支援学級担任当事者としての困難さを解消していけるよう、特別支援教育や障害に関する知識・技能を高めていくための支援を行っていくこと、また、継続して特別支援学級を担任してきた教師には、特別支援教育や障害に関する知識・技能を高めていくための支援だけでなく、周囲との関係性に関する困難さを解消していけるよう、「理解・啓発のための関係力」(齋藤, 2003)を身に付けていくための支援を行っていくことが必要であると考えられる。

また、特別支援学級担任が校内外から受けている支援の実態及び期待する支援についての比較から、「校内に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる」こと、「特別な教育的支援を必要とする児童を含めた学級経営や指導法について学ぶ校内研修がある」ことが、特別支援学級担任が通常の学級担任に対する支援を行っていく際に、必要とする支援であることが明らかとなった(表1、表2)。

本研究の結果で挙げられている「校内に通常の学級担任の支援等について相談できる相手がいる」ということは、先行研究で指摘されている特殊学級担任の専門性発達を心理的側面から支援するこ

と（齋藤，2003）と捉えることができる。また、「特別な教育的支援を必要とする児童を含めた学級経営や指導法について学ぶ校内研修がある」ことによって、校内の全教員で、通常の学級に在籍する特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する支援の在り方について検討していくことになり、特別支援学級担任が通常の学級担任に対する支援を行う上での不安や困難さを解消するだけでなく、校内の教職員の特別支援教育の専門性向上にも繋がるものとする。

以上のことから、校内支援の役割を担う特別支援学級担任の専門性向上を支援していくためには、心理的側面からの支援、校内外での学習を支えるための支援体制の構築が必要であるとする。

V 総合考察

研究1、研究2の両研究を通じ、校内支援の役割を担う特別支援学級担任に対する支援の在り方について、以下の視座を得た。

第一に、特別支援学級担任が校内支援を自分自身の役割として意識し担っていくためには、特別支援学級担任自身が取り組む自己研修と、それを学習と心理的側面から支えていくことの必要性がうかがえた。また、特別支援学級担任が校内支援の役割を担うために専門性を向上させていくことは、特別支援学級担任が身に付けた専門性が校内支援によって周囲の教師に還元され、学校としての特別支援教育の専門性向上にも繋がっていくことが考えられる。これらのことから、学校としての特別支援教育の専門性向上を目指すという観点からも、今後は特別支援学級担任の専門性向上について支援していくことが重要になる。

第二に、特別支援学級担任が校内支援の役割を担っていくためには、特別支援教育や障害についての知識・技能だけでなく、通常の学級担任を支援していくための「理解・啓発のための関係力」（齋藤，2003）という面からも、専門性向上を考えていくことの必要性がうかがえた。以上のことから、今後、校内支援の役割を担う特別支援学級担任への支援においては、特別支援学校教諭免

許状の取得や外部での研修により特別支援教育や障害に関する知識・技能を高めていくとともに、校内の教師、保護者、外部機関との連携を図りながら「理解・啓発のための関係力」を形成していきけるよう支援していく、という視点をもつことが重要ではないかと考える。

文献

- 秋田喜代美（1994）熟練教師と初任教師の比較研究．稲垣忠彦・久富善之（編）日本の教師文化．東京大学出版，85-96．
- 日比光治・加藤直樹（2011）教師の指導行動決定のための知識と教職経験との関係（Ⅰ）—中学校数学科教師の指導行動決定の背景にある指導観の分析を通して—．岐阜大学カリキュラム開発研究，28（2），37-49．
- 稲垣忠彦（2006）教師教育の創造—信濃教育研究所五年間の歩み—．評論社．
- 伊藤安浩（1994）教師文化・学校文化の日米比較．稲垣忠彦・久富善之（編）日本の教師文化．東京大学出版，140-156．
- 岸田元美（1990）人間的触れ合いの観点から．原岡一馬（編）教師の成長を考える．ナカニシヤ出版，81-96．
- 小島道生・吉利宗久・石橋由紀子・平賀健太郎・片岡美華・是永かな子・丸山啓史・水内豊和（2011）通常学級での特別支援教育に対する小・中学校の担任教師の意識構造とその影響要因．特殊教育学研究，49（2），127-134．
- 文部科学省（2004）小・中学校におけるLD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制整備のためのガイドライン（試案）．
- 文部科学省中等教育局特別支援教育課（2013）特別支援教育資料（平成24年度）．<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1335679.htm>（2013年8月17日）
- A.Morrison and D.McIntyre（1969）*Teachers and teaching*.Penguin Books.工藤正悟・菊池章夫訳（1974）教授行動の心理学．岩崎学術出版社．
- 中野靖彦（1990）教師の指導観に関する研究．愛知教育大学研究報告，39，83-94．
- 野口武悟・細刈富夫（2002）特殊学級担任の特殊教育免許状に関する一考察—埼玉県特殊学級担任を対象とした調査から—．発達障害研究，23（4），286-291．
- 及川俊広（2002）特殊学級担任の役割意識が自己形成意識に及ぼす影響について．上越教育大学大学院学校教育研究科障害児教育専攻平成13年度修士論文．
- 小島弘道（1983）「若い教師」における力量形成の独自性に関する研究—研修に関する意識調査を通して—．筑波大学教育学論集，7，17-49．
- 齋藤まり子（2003）新任期における特殊学級担任の専門性．上越教育大学大学院学校教育研究科障害児教育専攻平成14年度修士論文．
- 下無敷順一・池本喜代正（2006）小中学校教員の特別支援教育に対する意識．宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，29，357-366．
- 特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議（2010）教員の特別支援教育に関する専門性の現状と課題について（「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議審議経過報告（平成22年3月24日）抜粋」<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1298226.htm>（2013年11月29日）
- 油布佐和子（1998）教師の指導観に関する実証的研究．福岡教育大学紀要，47（4），89-99．